

『東京美術学校校友会月報』記事抜粋

東京美術学校近事 [二二] 卷号。T・十二年・四月・二三日

○職員辭令

大正十二年二月十五日

休職教授 沼田 一雅

復職ヲ命ズ(文部省)

同 二十五日

學校長 正木 直彦

佛蘭西共和國政府より贈與したる「オフキシエ・ド・ランストリ
ユクシヨン・ピユブリック」^[勳]記章を受領し及び佩用するを允許せ
らる(賞勳局)

教授 和田 英作

佛蘭西共和國政府より贈與したる「オフキシエ・ド・ロドル・ナ
シヨナル・ド・ラレジヨンドーノル」勳章を受領し及び佩用する
を允許せらる(同上)

同 三月七日

雇 柳生常治郎

依願解雇

同 十三日

金子千代雄

東京美術学校雇を命ず 文庫掛を命ず

同 十七日

右本姓に復し森井と改姓の旨届出たり

教授 神木 健介

同 二十四日

教授 古宇田 實

叙勳五等授瑞寶章

同 三十日

教授 白山 福松

依願免本官

同

書記 北浦 大介

本校主任收入官吏書記足立芳五郎取扱に係る帖簿金櫃の検査を命
ず

同 四月五日

學校長 正木 直彦

本日より向一週間富山石川兩縣下に出張せらる

教授 久米桂一郎

金工科鑄造科に課する西洋畫擔任兼務を命ず

教授 渡邊 啓三

助教授 田邊 孝次

學術實地指導の爲京都府奈良縣滋賀縣へ出張を命ず 但往復共十

七日間の事

講師 赤間 運藏

雇 白木 登一

本校生徒修學旅行に付京都府奈良縣滋賀縣へ出張を命ず 但往復

共十七日間の事

同日 六日

右休職中の所休職期間満了せり。

○職員動靜

○神木〔健介〕教授 先般生家森井に復姓さる

○長口〔宮吉〕助教 先般府下北豊多摩郡武藏野村吉祥寺二〇二五へ轉居さる

助教 小林龜五郎
同 戸塚 暢夫

○第三十二回卒業證書授與式 三月二十四日午前十時より本校大講堂にて舉行さる、式は卒業生、職員、來賓の着席するや、正木〔直彦〕校長の式辭に依つて初められ、校長は卒業證書授與の後、一場の告辭を述べられ、次いで文部大臣代理葉山文部督學官は次の祝辭を代讀せらる。

〔文部大臣鎌田栄吉祝辭および卒業生総代今野春郎答辭省略〕

式の前後、來賓に卒業製作並に工藝部成績品の觀覽を乞ひ。式全く終りたる後、紀念撮影を成して散會せり。

當日は天氣晴朗なりし爲、朝野の來賓多數來會されたり。尙本年度の卒業生の科別人員並に姓名及卒業製作品目録次の如し

卒業生科別人員

科名	本科	選科	計
日本畫科	一七	三	二〇
西洋畫科	二五	二	二七

卒業生姓名及卒業製作目録(席次イロハ順)

日本畫科

彫刻科	塑造部	五	四	九
木彫部	第一部	〇	一	一
圖案科	第一部	一〇	〇	一〇
	第二部	二	〇	二
金工科		五	一	六
鑄造科		三	〇	三
漆工科		二	〇	二
圖畫師範科		二〇	〇	二〇
合 計		八九	一一	一〇〇
武藏野	本科			飯村 哲
山村の秋	同			入江 威
春	同			漁之上 愿
冬の庭	同			橋本 徳男
岬の午後	同			永井 武雄
早春	同			村島西一郎
風景二題	同			野口謙次郎
まどゐ	同			國則 薫
洛南之卷	同			山口 三郎
春暖	同			後藤 徳次
春	同			小島 三好
秋	同			荒井鋼一郎
春	同			

秋	夕暮	秋色	清秋	庭	鶴	朝霧	上州の或る山	芝居	病む日	日曜日	妹の像	籐椅子によりて	秋の田園	お支度	街上スケッチ	スケート場の夕陽	喫烟	小供と女	肖像	習作	火鉢	三時頃
同	同	同	同	同	同	同	西洋畫科	自畫像	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
水野 穰	宮澤鐵次郎	日向 三郎	秀島 英磨	森田 才一	李 漢 福	難波 千尋	内ヶ崎敏雄	伊藥 熹朔	岩田 藤七	石川吉次郎	濱田 重雄	西内 清顯	大江寅五郎	小野 安治	和田 茂生	川合 修二	田中 成一	田中 ^(代) 謙助	栗田 博	山田 新一	松崎 季次	深澤 省三
わが部屋にて	斷髮裸女	裸體	室内	あみもの	あけぼの	娯樂	庭にて	友人の肖像	濱邊で舟を造つてゐる	小女	西湖	彫刻科	胸像(女)	胸像(女)	胸像(女)	つかれ(女)	胸像(女)	若き女	女の顔	自像	女の首	若ひ人自像
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
藤 彦衛	江藤 純平	佐伯 祐三	佐藤九二男	佐々木慶太郎	御園生義太	鹽田 信夫	進藤 常雄	杉山 新樹	鈴木 大造	李 鍾 禹	周 天 初	花里 金央	中川 清	江藤 陽吉	荒居 徳亮	木内 五郎	今村重三郎	門脇 正夫	齋藤 又乙	吉川 保正		

風神

圖案科

第一部

壁掛圖案

壁掛圖案

客室及附屬裝飾品案

喫煙室

三美應用裝飾圖案

織物圖案各種

刺繡屏風裝飾文様圖案

室內裝飾品案

裝飾文様圖案

舞踏室裝飾及器具圖案

第二部

或る舊城跡に建つ貴族の別邸

レクチュアホール

金工科

四方佛舍利筐

香盒(蘭陵王面の圖)

束の間の夢(額面)

陽紫華釣香爐

寶塔爐

如意

選科 山内 倉藏

本科 石崎 猛夫

同 大橋 憲

同 加曾利鼎造

同 柿田 秀雄

同 橋 大含

同 田代 忠

同 中山 修三

同 熊谷 年郎

同 小林 吉一

同 森 正

本科 諫早 幹

同 吉田 五十八

本科 横山 正義

同 深瀬 嘉臣

同 水谷育太郎

同 水町 程之

同 杉浦基史郎

選科 山田甲子雄

鑄造科

燈籠

釣燈籠

經筒

漆工科

ふうろう草蒔繪茶箱

古模様蒔繪小唐櫃

圖畫師範科

池田 季藏

林 英夫

柏原覺太郎

長尾 徹

松原 一

本(科) 林 萬壽人

同 佐原亮太郎

同 森村 西三

本(科) 駒見篤太郎

同 今野 春郎

石山 清隆

鯨津 政男

田中 孝市

山本 隆亮

山本 磯一

青山 清

佐藤 秀夫

○第二回工藝部展覽會 昨年第一回を開催して好成績を示し、且つ本校教旨を徹底さす有力なる媒介として卒業生間に好評を呈したるを以て、引續き本年も第二回を三月二十四日卒業式當日及二十五、六兩日間美術部教舎階下に開催せり。兩日の入場者約七千、賣約千六百圓に及び、非常の盛況を呈せり。

○新入學生 本年度入學志望者は各科共年々増加したるが三月、廿九日より三日間、各科に於て更に撰抜試験の結果豫備科に入學を許

可せられたるもの左の如し(イロハ順)

日本畫科

岩上 先天

石川 一代

日本畫科

岩上 先天

石川 一代

天野武吉郎	小松原義則	古屋 暹	松原 勝	安田岩次郎	山村孝太郎	中井惣之助	竹田 讓	田中 致美	片野誠二郎	渡邊 得三	大澤 昌助	星合 良顯	伊勢 幸平	岩田 芳助	西洋畫科	三輪(輪) 敏夫	齋藤 勇吉	海野濤治郎	村上 秀夫	永田 駿	高橋 道利	奧村 義雄	馬場 和夫
淺井 景一	小島 勘藏	福島順之助	丸山 清六	丸山 清六	山口 猛彦	野崎 龍雄	田淵 巖	田中 孝夫	勝見 謙信	加藤鬼頭太	奧村 義雄	椿堂芳三郎	二宮不二磨	石井 喬明	森 則康	佐久間善三郎	安松 義弘	村 金平	各古谷謙一	武田 正躬	川部東次郎	星野 吉正	

松本 武男	熊田 早苗	恒松 熊夫	飯田 久雄	飯田 久雄	安田松之助	中野 四郎	市島 捷造	平松 豐彦	山崎 三雄	栗田 年彦	長濱 虎雄	高村 隆吉	笠置 季男	和田 義臣	原田 文武	和田 義臣	杉山 榮	彫刻科	清水 直康	三木 辰夫	迫田鐵次郎	佐藤 功
福興 晉策	安田 三良	中村 茂好	塚本圀太郎	塚本圀太郎	菅原 安男	村井 辰男	高橋 良雄	木彫部	佐藤 恒三	梁川 剛一	村井 次郎	堆朱 克彦	樽谷清太郎	河村 幸成	西川 爲善	河村 幸成	鈴木 重成	關谷 陽	島津 久幹	宮間 郁三	佐藤 文雄	

藤井 正胤	小西 富治
小山 茂	雨夜 全
木下銚五郎	森田 炬國
鈴木 文明	
〔圖案科第二部〕	
今村 ^{〔吉〕} 鐵一	翁村 壽
川野 德惠	梅野欽次郎
松平 正次	榮 米治
左納 峻	平松 義彦
金 工科	
川口武一郎	海野 建夫
相川 久	
鑄造科	
片寄 良重	黒田 清純
丸岡 芳男	丸岡 茂徳
塗 ^{〔漆〕} 工科	
織田 一郎	和田 卯吉
笠間 與男	溜貝庸之助
長瀬 得藏	倉原 高雄
阿部 鐵雄	
師 範科	
今井 退藏	原 眞雄
當原 昌松	遠山 八二
遠山 清	亙理 弘

渡部又三郎	渡部美津丸
和田 有節	景山 濱市
神田 豊秋	吉野 正孝
谷 信夫	高橋 隆三
高橋 信重	中居 良次
氏家 次郎	白田 朝雄
倉田 三郎	小林 富藏
佐藤 千里	佐藤 重義
阪井 ^{〔返〕} 範一	兪 亨穆
神内 正芳	廣隆 軍一

東京美術學校近事 (二二一一。T・十二・五・二七)

○職員辭令

大正十二年四月十一日

學術研究ノ爲臺灣へ出張ヲ命ス 但往復共二週間ノ事
 講師 久米 福衛
 同 十二日 雇 奥川 忠男

依願解雇

京都府技師 阪谷良之進
 本校生徒京都府修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス
 奈良縣技師 岸 熊吉
 本校生徒奈良縣修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス

本校生徒奈良縣修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス
正七位 新納忠之介

同 十八日

教授 結城 貞松

支那繪畫研究ノ爲滿一年間英吉利國佛蘭西國及獨逸國へ在留ヲ命
ス(文部大臣)

同 二十一日

助手 山田 廉

學術實地指導ノ爲神奈川縣へ出張ヲ命ス
但往復共一日間ノ事

同 二十七日

學校長 正木 直彦
教授 久米桂一郎

佛國美術展覽會準備委員ヲ囑託ス(文部省)

同 二十八日

元教授 白山 福松

敍從四位 特旨ヲ以テ位一級被進(宮内省)

教授 森 芳太郎

學術研究ノ爲大阪市へ出張ヲ命ス
但往復共四日間ノ事

同 三十日

講師 鈴木 信一
岡田 起作

教員檢定委員會臨時委員被仰付(内閣)

同 五月一日

第二次朝鮮美術審査委員會委員ヲ囑託ス(朝鮮^總督府)
教授 和田 英作

助教 石田 英一

圖案科第一部ニ課スル金工製作法實習兼擔ヲ命ス

東京美術學校近事(二二―三。T・十二・六・一七)

○職員辭令

大正十二年五月五日

教授 松岡 輝夫

助教 小泉 勝爾

同 五月十日

教授 結城 貞松

同 十二日

教授 森 芳太郎

學術研究ノ爲仙臺市へ出張ヲ命ス
但往復共二週間ノ事

同 二十一日

教授 松岡 輝夫

日本畫科理事ヲ命ズ

教授 結城 貞松

日本畫科理事ヲ免ズ

同 二十二日

森田 武

本校助手ヲ免シ更ニ講師ヲ囑託ス 但圖案科圖案實習擔任ノ事

岩崎 巖

東京美術學校雇ヲ命ズ 會計係ヲ命ズ

同 二十四日

文部省在外研究員教授 矢代 幸雄

滿期後大正十三年三月三十日迄私費滞在ノ件許可ス

○職員動靜

○大島〔勝次郎〕教授 府下瀧の川字西ヶ原五五八へ轉居せらる。

東京美術學校近事〔二二一四。T・十二・七・三一〕

○職員辭令

大正十二年五月二十九日

學校長 五木^{〔正〕} 直彦

五月二十九日ヨリ六月三日迄奈良縣下ニ出張セラル

同 六月五日

教授 島田 佳矣

學術研究ノ爲石川縣へ出張ヲ命ズ 但往復共一週間ノ事

同 九日

教授 津田 信夫

獨逸國及英吉利國ヲ在留國ニ追加ス 文部大臣

同 十三日

教授 白濱 徹

助教授 平田 榮二

學術實地指導ノ爲茨城縣福島縣宮城縣へ出張ヲ命ズ 但往復共六

日間ノ事

同 十八日

講師 辻村延太郎

學術研究ノ爲栃木縣宮城縣^{〔岩〕}巖手縣へ出張ヲ命ズ 但往復共五日間

ノ事

同 三十日

教授 島田 佳矣

教員檢定委員會臨時委員被仰付 内閣

同 七月四日

講師 菅原 教造

依願解囑

同 六日

東京高等工藝學校教授 鎌田彌壽治

義〔兼〕東京美術學校教授

○職員動靜

○關野貞講師 本郷區東片町一二八へ轉居。

東京美術學校近事〔二二一五。T・十二・一〇・三一〕

○職員辭令

大正十二年七月十七日

同

同

大正十二年度師範學校高等女學校教員等講習會講師ヲ囑託ス(文
部省)

教授 和田 英作
同 白濱 徹

講師 大澤三之助

助教授 松田 義之
雇 岡 四郎

講師 赤間 運藏

同上事務取扱ヲ囑託ス(同)

助教授 堀井 政吉

除服出仕

講師 中田 俊造

任東京博物館學藝官 敘高等官六等

同 三十一日

學校長 正木 直彦

依囑製作事務ニ關シ八月一日ヨリ同四日迄岐阜縣下へ出張セララル

同 八月十日

講師 六角注多良

學術研究ノ爲朝鮮京城へ出張ヲ命ス 但往復共十日間ノ事

同 九月十四日

教授 森井 健介

除服出仕

同 十月一日

講師 岡田信一郎

任東京美術學校教授 敘高等官三等(内閣)

雇 杉浦 青治

除服出仕

東京美術學校近事(二二一六・T・十二・十二・七)

○職員辭令

大正十二年十月十五日

東京高等工藝學校教授 鎌田彌壽治

本校講師ヲ囑託ス 但寫眞術授業擔任ノ事

同 十八日

教授 白濱 徹

學術研究ノ爲秋田縣へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事

同 二十二日

講師 辻村延太郎

除服出仕

同 二十九日

教授 久米桂一郎

佛蘭西共和國政府ヨリ贈與シタル「シウブリエー・ド・ロンドル
・ナシヨナル・ド・ラ・レジヨン・ドノール」勳章ヲ受領シ及ヒ
佩用スルヲ允許セララル

同 三十日

學術研究ノ爲富山縣へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事 講師 辻村延太郎

同 十一月一日

教授 渡邊 啓三

工藝部第一學年主任ヲ命ス

助教授 田邊 孝次

工藝部第一學年理事ヲ命ス

同 八日

教授 岡田信一郎

講師 大澤三之助

助教授 田邊 孝次

同 水^{〔谷〕} 武彦

學術研究ノ爲神奈川縣へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

○職員動靜

○齋藤佳藏講師 獨逸遊學中の所十一月五日歸朝。

東京美術學校近事〔二二一七。T・一三・一・二七〕

○東伏見宮妃殿下本校へ御成 十二月十日東伏見宮妃殿下には川島宮務監督、高橋事務官及女官一名を隨へさせられ、本校へ御成あり、左記の順序にて各教室、實技學課の授業の狀況併に模本繪畫の特別陳列を詳細御覽あらせられ、午後四時御機嫌美しく、教職員奉送裡に御歸館遊ばされたり。

特別陳列及授業御覽順序

午前九時二十分御着 御休憩（日本畫科準備室）

日本畫科 各年教室

西洋畫科 人體寫生（第二年）油繪寫生（上級）石膏寫生（第一年）

階下へ

彫刻科塑造部 胸像（第二年）全身（上級）模刻（第一年）木彫

教室へ

同 木彫部 木彫教室^{〔不明〕} 玄關より建築科へ

建築科 階上へ製圖教室階下へ標本室 學課授業 工藝部へ

工藝部 玄關より階上へ

圖案科 各教室及參考品

圖畫師範科 參考室 第三年教室

漆工科 參考品及教室 階下へ

金工科 參考室、彫金教室、鍛金教室、鑄造科へ

鑄造科、蠟型教室、仕上教室、生徒控室廊下ヨリ寫眞科へ

寫眞科 階上へ參考室陽畫作業撮影階下へ文庫へ

文庫 階上へ

御休憩 文庫參考品美術部玄關へ第一講義室へ

第一講義室 學課授業 日本畫科階段ヨリ階上へ 特別陳列室へ

特別陳列室 會議室及講堂、御休憩室へ

御休憩 御歸館

○東洋畫模本展覽會 十二月七日より三日間、本校大講堂及會議室^{〔室〕}に於て、左記の所藏品を陳列して一般に公開の展覽會を開催せるが、閉會の翌日東伏見宮妃殿下御成に際し、特別陳列として御臺覽^{〔台〕}

に供せり。

目録

一	法隆寺金堂壁畫	原本所藏者	二四	春日權現驗記	御物
二	聖德太子御畫像	法隆寺	二五	聖德太子御畫像	法隆寺
三	吉祥天圖	御物	二六	花園法皇御畫像	山城、長福寺
四	過去現在因果經	藥師寺	二七	藤澤道場繪詞 <small>(元藤澤清淨光寺に在りしが同寺炎上の際焼失す)</small>	知恩院
五	醍醐寺五重塔板繪	東京美術學校	二八	法然上人行狀繪傳	東京美術學校
六	二十五菩薩來迎圖	東京美術學校	二九	雪見御幸繪卷	東京美術學校
七	吉祥天厨子屏繪	高野山巡寺八幡講	三〇	普賢菩薩十羅刹女圖	池田侯爵家
八	信貴山緣起	東京美術學校	三一	後三年軍記繪卷	池田侯爵家
九	扇面古寫經	朝護孫子寺	三二	太子繪傳	川合玉堂氏
一〇	伴大納言繪詞	東京帝室博物館	三三	頼燒阿彌緣起	鎌倉、光觸寺
一一	病草紙	四天王寺	三四	大燈國師畫像	大德寺
一二	餓鬼草紙	酒井伯爵家	三五	百鬼夜行繪卷	大德寺眞珠庵
一三	紫式部日記繪卷	關戶守彦氏	三六	益田兼堯畫像	男爵益田兼施 <small>(マ)</small> 氏
一四	金光明王經	河本乙五郎氏	三七	祭禮草紙	前田侯爵家
一五	後白河法皇御畫像	蜂須賀侯爵家	三八	職人盡繪	川越、喜多院
一六	清瀧權現	久松伯爵家	三九	彦根屏風	井伊伯爵家
一七	當麻曼荼羅緣記	東京美術學校	四〇	美人圖	東京帝室博物館
一八	源頼朝畫像	妙法院	四一	浮世人物圖	根津嘉一郎氏
一九	北野天神緣起	原富太郎氏	四二	風俗屏風	村井吉兵衛氏
二〇	金剛界圖像集	鎌倉、光明寺	四三	鷹見忠常畫像	鷹見久太郎氏
二一	繪師草紙	神護寺	四四	燉煌發掘壁畫	倫敦、英國博物館
二二	西行記	北野神社		女史箴圖卷	同館
		人吉、願成寺		原本	
		御物		過去現在因果經	東京美術學校
		蜂須賀侯爵家			

醍醐寺五重塔板繪菩薩圖

吉祥天厨子扉繪

金光明王經

雪見御幸繪卷

普賢菩薩十羅刹女圖

太子繪傳

同 校

同 校

同 校

同 校

同 校

川合玉堂氏

○職員辭令

大正十二年十一月十二日

講師 鎌田彌壽治

除服出仕

同 十五日

弓術指南囑託 本牧 太一

依願解囑

同 十六日

助教授 小泉 勝爾

同 篠田十一郎

學術實地指導ノ爲東京府下へ出張ヲ命ズ 但往復共一日間ノ事

同 二十六日

講師 杉田 精二

學術研究ノ爲長野縣下へ出張ヲ命ズ 但往復共一週間ノ事

同 十二月三日

講師 赤間 運藏

右病氣ノ處十二月二日午前一時死去ノ旨遺族ヨリ届出アリタリ

同 八日

教授 建昌彌一郎

同 森 芳太郎

同 渡邊 啓三

同 朝倉 文夫

同 北村 西望

陞紋高等官六等(内閣)

同 十日

教授 岡田信一郎

紋從五位(宮内省)

同 十三日

雇 宮坂福太郎

教授 小林 萬吾

除服出仕

講師 關野 貞

學術研究會議會員被仰付(内閣)

同 十八日

講師 北村 耕造

陞紋高等官二等

同 二十日

本多 利時

本校體操副科弓術指南ヲ囑託ス

○職員動靜

○大島如雲教授 客臘府下瀧の川町字大原四五〇へ轉居せらる。

○上村福幸講師 府下豊多摩郡杉並村高圓寺九八六へ轉居せらる。

同 十四日

○和田季雄助教 豫て自己設計に係る家屋新建築中の所竣成したるにより客臘來牛込區天神町七六の新居に移住せらる。

講師 橋本市藏

○森田武講師 客臘三十一日二女を喪はる、謹んで哀悼の意を表す。

右病氣ノ所一月十一日午前四時三十分死亡ノ旨遺族ヨリ届出タリ。

○橋本市藏講師 一月十一日永眠せらる、謹んで哀悼の意を表す。

同 十五日

東京美術學校近事 (二二一八。T・一三・三・七)

同 岡四郎

○職員辭令

雇ヲ解ク

中川萬次郎

大正十二年十二月十八日

東京美術學校教務ヲ囑託ス

岡四郎

陸絛高等官二等

講師 北村 耕造

教務囑託 中川萬次郎

同 二十五日

教務掛並彫刻科兼務ヲ命ス

教務囑託 岡四郎

絛勳四等授瑞寶章

教授 古字田 實

同 教務掛並西洋畫科兼務ヲ命ス

書記 筒崎 謙齋

同 二十八日

同 除服出仕

同 書記 筒崎 謙齋

對支文化事業調査會委員被仰付 (内閣)

教授 黒田 清輝

同 三十日

教授 白濱 徹

同 絛正五位

講師 北村 耕造

學術研究ノ爲山形縣下へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

教授 建島彌一郎

大正十三年一月十日

教授 古字田 實

同 同 同 同

同 同 同 同

文部省視學委員ヲ命ス

京都奈良和歌山縣へ出張ヲ命ス

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

修正七位

同 二月七日

除服出仕

同 朝倉 文夫
同 北村 西望

助教 坂口 朧

関連事項

① 東京美術学校規程・規則改正

本件については『東京美術学校一覽從大正十二年至大正十四年』所載「沿革略」に次のように記されている。

大正十二年五月二十六日文部省令第二十五號ヲ以テ本校規程ヲ改正セラレ從來施行セラレタル大正三年文部省令第二十八號東京美術學校規程及明治四十年文部省令第十八號東京美術學校圖書師範科規程ハ廢止セラル 同月中此改正省令ニ依リ本校規則モ改正シ學科中圖案科一部二部ノ區別ヲ廢シ同科二部ヲ以テ建築科ヲ置キ製版科ヲ廢シ臨時寫眞科ノ臨時二字ヲ除キ永久存置トシ又各科ノ豫備科ヲ廢シ入學許可者ハ直チニ各科第一學年ニ編入スルコトトナレリ

大正五年の東京美術学校改革運動の頃より懸案となつていた規則改正の問題は、既に述べたように内規改正等のかたちで各科ごとに部分的解決がなされたが、ここに至つて各科或いは実技教官と学科

教官との意見調整を経て規程、規則全体の改正が実施された。前出『東京美術学校一覽』より改正後の東京美術学校規程、同規則、および改正に伴つて變化した条項を抜粋して左に転載する。

學年曆(大正十二年ヨリ大正十四年ニ至ル)

四月一日ヨリ

學年始マル

四月一日ヨリ同月十日ニ至ル

春季休業

四月三日

休業(神武天皇祭)

六月下旬ヨリ

第一學期試験ヲ施行ス

七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

夏期休業

七月三十日

休業(明治天皇祭)

八月三十一日

休業(天長節) 第一學期了ル

九月一日

第二學期始マル

秋分

休業(秋季皇靈祭)

十月四日

休業(本校設置記念日)

十月十七日

休業(神嘗祭)

十月三十一日

休業(天長節祝日)

十一月二十三日

休業(新嘗祭)

十二月三十一日

第二學期了ル

十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル冬季休業

一月一日

休業(四方拜) 第三學期始マル

一月三日

休業(元始祭)

一月八日

始業式

二月十一日

休業(紀元節)